

長沢勝俊作品集

◎昭和五十八年度文化庁助成

日本音楽集団 第七十九回◆秋の総合定期演奏会

指揮／田村拓男 制作／三木稔

作品解説

アポロンの表現に息づく批評

長沢さんと共に来た道

長沢勝俊作品年譜

邦楽現代ニユース

フィンランド演奏旅行同行記

日本音楽集団の活動とご案内 他

長沢勝俊

池田逸子

三木 稔

池田逸子

横溝亮一

昭和五十八年十月五日(水)午後七時開演
朝日生命ホール(新宿西口)

◎主催／日本音楽集団・現代邦楽協議会◎協力／ジャパン・アーツ



長沢勝俊

本日は御来聴いただき、誠にありがとうございました。

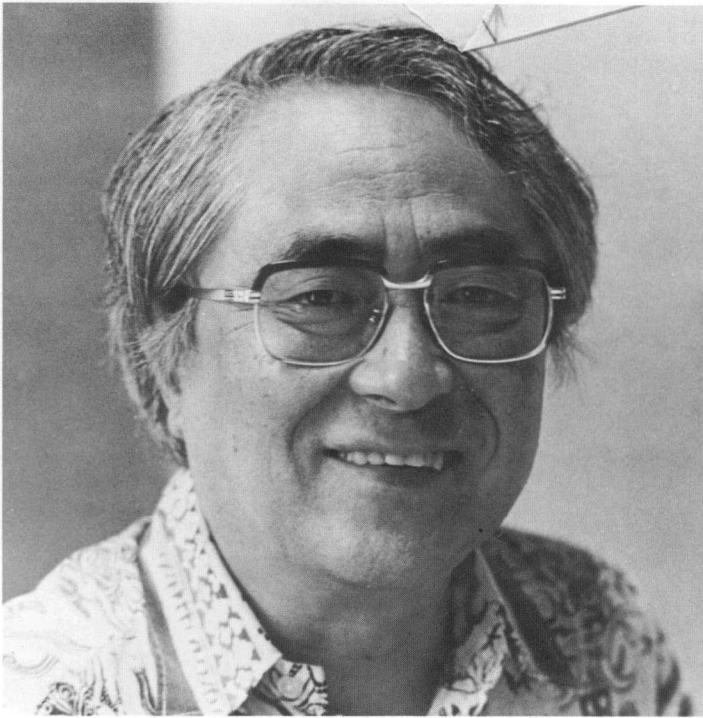
日本音楽集団とともに歩んできた道も、今年で十九年になります。

集団を支持して下さる多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

十九年の長い期間にわたる団員との活動に思いをめぐらすとき、

感無量のものがあります。

今後ともこの道に精進をつづけていきたいと思っております。



日本音楽集団

終戦を南方で迎えてそのまま三年間の抑留生活を送った青年は、アコーディオンを抱えて人形劇団ブークと日本中を旅します。

そして、日本音楽集団の結成に参加するや珠玉の名品と謳われる数々の作品を生み出し、一方、現在まで永く団代表の重責をも全うしてきました。

その長沢さんも今年六十歳——。うちのことながら還暦を記念し、長く愛されている作品群から選んだ四曲と、今回のためにあらたに書かれた新曲をもって長沢勝俊作品特集を企画しました。

人を愛し、自然を愛し、「生」へ憧れる長沢さんの音楽は「心にしみる」という意味を実感させるでしょう。長沢勝俊を愛し、彼の作品を愛する多くのみなさまとともに、今後なお一層の活躍を期待したいと思います。

プログラム

一、颯踏——笛と打楽器のための音楽——

〔笛〕 望月太八
〔打楽器〕 尾崎太一・藤舎成敏

四、鳥と砂と海と

〔初演〕

〔笛〕 西川浩平
〔尺八Ⅰ〕 坂田誠山
〔胡弓〕 畦地慶司
〔琵琶〕 田原順子
〔箏Ⅰ〕 花房はるえ・松本和美
〔箏Ⅱ〕 宮越圭子・滝田美智子
〔箏Ⅲ〕 内藤洋子・熊沢栄利子
〔十七絃〕 木村玲子・石川憲弘
〔打楽器〕 尾崎太一・黒坂昇
〔指揮〕 田村拓男

二、飛驒によせる三つのバラード

〔尺八〕 坂田誠山
〔箏Ⅰ〕 白根きぬ子
〔箏Ⅲ〕 木村玲子
〔箏Ⅱ〕 宮越圭子
〔十七絃〕 宮本幸子

三、尺八協奏曲

〔独奏尺八〕 宮田耕八朗
〔笛〕 藤崎重康
〔三味線〕 太田幸子
〔箏Ⅰ〕 花房はるえ・松本和美
〔箏Ⅱ〕 内藤洋子・熊沢栄利子
〔十七絃〕 滝田美智子・石川憲弘
〔打楽器〕 堅田啓輝・黒坂昇
〔指揮〕 田村拓男

五、ファンタスマゴリア

〔笛〕 望月太八・西川浩平
〔尺八Ⅰ〕 宮田耕八朗・福田輝久・水谷雅康
〔尺八Ⅱ〕 三橋貴風・藤崎重康・素川欣也
〔尺八Ⅲ〕 坂田誠山・田嶋直士
〔三味線〕 野口美恵子・太田幸子・加藤洋
〔太棹三味線〕 坂井敏子
〔箏Ⅰ〕 野坂恵子・内藤洋子・滝田美智子
〔箏Ⅱ〕 花房はるえ・木村玲子・出口裕子
〔十七絃〕 宮越圭子・熊沢栄利子・松本和美
〔打楽器〕 堅田啓輝・黒坂昇
〔指揮〕 田村拓男

作品解説

長沢勝俊

颯踏——笛と打楽器のための音楽——

しの笛と能管、それは同じ横笛でありながら、その楽器の性格はまったくことなっているように思われます。しの笛には長短各種の音域の管があり、それぞれのピッチにあつた合奏を行ってきたのに対し、能管はただ一本であらゆる調子の音楽と合奏しようという特性を持っています。

しの笛がもつばらその繊細な音色により、抒情的メロディーを吹き、また軽快な祭囃子の世界で活躍してきたのに対し、能管は能楽をはじめ長唄囃子や神楽囃子等において、そのおらかな音色や、するどい一吹により独特の世界を形成してきました。そしてこの両者とも多くの場合、各種の打楽器との合奏により、その輝きを一層きわだたせてきました。

（曲は二つの部分より出来ており、笛（しの笛と能管）と各種の打楽器の自由な組合せにより、古代の響を聴くと同時に、これらの楽器と現代の心をかよわせたというねがいをもって作曲したものです。

一九七五年十二月三日、日本音楽集団第三十回定期演奏会により、初演されました。

飛驒によせる三つのバラード

飛驒（現在の岐阜県高山地方）はかつての幕府の天領として栄えた所ですが、ここには今もまだ当時の手作りの文化が豊富に残っており、私達がいつのまにか手離してしまつたいろいろなものを、ふたたびみることが出来ます。

この曲は飛驒に残る数多くのものの中から、私が特に強く心ひかれた三つもの（歩荷・立円・杉玉）を素材として取上げ、厳しい山国の自然と飛驒に生きる人達の生活を画いたものです。

一九七七年「桐韻会」の委嘱により作曲、同年四月十二日、桐韻会第十二回演奏会により初演されました。

尺八協奏曲

歌物、語り物を中心に発展してきた日本の音楽の中で、尺八は器楽としてその独自の道を歩んできました。この深い伝統を背負つた尺八を用いて、現代の作曲

家はさまざまなイメージをもつて挑戦してきました。
この曲は現在までに書き続けてきた私の尺八観の延長線上にあるものであり、邦楽器群との交流の中で私のイメージする尺八の魅力をさらに拡大するよう、こころがけたものです。なお、このカデンツァは本日の独奏尺八の奏者、宮田耕八郎によるものです。

一九七八年七月七日、日本音楽集団第四十八回定期演奏会により初演されました。

鳥と砂と海と

日本には古くから「鳴り砂」または「鳴き砂」と呼ばれる、砂が琴を奏するような音を出すという現象があります。現在でも「琴ヶ浜」「琴引浜」「鳴浜」等という地名が残っており、その個所は全国で二十ヶ所にもものぼるといわれています。かつて、たえなる音を奏でたこれらの浜辺は、海と海岸の汚染が進むにつれ、その歌声は年ごとに小さく、細くなつてきています。

冬の荒れ狂う怒濤に洗い浄められた砂は、鳥のあゆみにも敏感に反応し、ささやかなやさしい自然の歌をうたい続けてきました。

しかし現在の日本は自然の摂理に反する事象が氾濫しています。「鳴き砂」の音を絶やすことは、次に人間が泣くことになるのではないのでしょうか。

人間と自然の調和の中にこそ、明日への平和があることをねがい作曲しました。「鳥と砂と」「鳥と海と」の二章より出来ています。

一九八三年十月五日、日本音楽集団第七十九回総合定期演奏会にて初演

ファンタスマゴリア

「ファンタスマゴリア」とは、次から次へと変つていく光景といった意味です。私が作曲した「子供のための組曲」（一九六四年作曲・第一回定期演奏会初演）と「組曲・人形風土記」（一九六六年作曲・第四回定期演奏会初演）の中より数曲を選び、組曲風に構成するものです。この両曲ともが子供と人形の世界を画いたものであり、長年にわたりたずさわってきた人形劇活動の中から私が肌で感じ共感したものをモチーフとしたものです。従つてこの両者が、どのようにまじり合つても不自然ではなく、その時々に応じたさまざまな組合せが考えられます。

今回は「子供のための組曲」より第一章・第二章・第五章、及び「組曲・人形風土記」より「ニポポ」へのろま人形」が演奏されます。

アポロンの表現に息づく批評

長沢勝俊の作曲生活三十五年によせて

池田 逸子

一九七一年十一月十日、都市センターホールで行われた日本音楽集団第十五回定期演奏会《長沢勝俊作品集》のプログラムで、長沢はつぎのように述べている。

私は自分の音楽歴をふりかえってみると、大きな影響を与えてくれたものが三つあったようにおもわれます。芸術に対する単純な憧れからとびこんでいった「劇団ブーク」は私に真の芸術とはなにか、また芸術運動とはなにか、ということを教えてくれました。

恩師清瀬保二先生のもとは音楽のありかたと作曲における基本的な姿勢について、はかりしれないほど多くのことを学びました。さらに集団のなかにおいては、多くのすぐれた演奏家とともに、その実践活動を通じて長年身をもって学び、体験してきたものを実らせ、私の音で私の心を語りうるものが出来ました。

音楽生活におけるこの三つの重要な影響については、氏はその後も折にふれて語っている。来年初立二十周年を迎える日本音楽集団も、当時は最初の峰をめざして上昇をつづける、結成八年目。プログラムを飾る長沢さんの端正な横顔もまだまだ若々しい。その長沢さんがこの八月に還暦を迎えた。人形劇「絵かきのプー吉」の音楽でスタートして以来三十五年を経た作曲生活をこの機会にふり返り、あの独特な魅力をもつ「長沢ぶし」の形成・開花の道程をあらためてみなおしてみることしよう。

一九二三年(大正十二年)八月二日、東京の新宿に生まれた長沢勝俊の音楽体験は、父親が好きで集めていた洋楽のレコード——「ユーモレスク」とか「タイスの冥想曲」といった軽い作品——をきくことから始まる。中学時代になると、友人の影響から猛烈に熱中、スコアを見ながら一日中きいたりしているうちに、作曲したい気持を抑えられなくなり、通信教育で和声学を学びながら、メロディーを書いたり、合唱曲を書いてみたりする。津川圭一の指導するジグ・アカデミーコーラスに通ったのもその頃。戦火激しくなってきた一九四三年、日本大学芸術

学部に入學したが、数ヶ月で学徒出陣の「赤紙」がきて中退、南方へ出征。スマトラで敗戦を迎え、捕虜となってシンガポールのジョン・収容所に送られる。収容所内でありあわせの楽器を集めてつくった楽団が「ジョン・アンサンブル」で、そこで覚えたアコーディオンが、復員後の身を助けることになる。

一九四七年秋に帰国したが、経済事情などから復学はあきらめ、いとこ(演出家八田元夫の妻)の紹介で劇団「ブーク」に入団(一九四八年三月)。アコーディオンを肩に日本全国を公演してまわるなかで、「絵かきのプー吉」(一九四八)や「ファウスト博士」(一九四九)などの音楽を書き、作曲家としての出発をする。戦前から芸術の進歩的な思想性を堅持し、子どもたちのきびしい審美眼に耐えうる芸術創造をめざすブークの仕事を通して、芸術のきびしさが人間の生き方のきびしさに通ずることを学ぶ。旅先では民俗芸能に接する機会も多く、それらは後に花咲く創造のための糧として貯えられる。

職場のコーラスの指導などをはじめ、旅の多いブークの仕事作曲中心にしばらくつあった頃、清瀬保二の「第一ヴァイオリン・ソナタ」を放送で聞いて感動し、その門を叩くのが一九五一年頃。清瀬保二からは、他人が何と言おうと、「自分の音で自分の本心を表現する」という作曲の根幹を徹底して教わり、それが今日までの氏の作曲態度を貫く基本姿勢となった。

ブーク以外の劇音楽や記録映画の音楽を書き出したのもこの頃。どちらも現在までつづいているが、特に映画の仕事では、当時、亀井文夫監督の「生きてよかった」、「世界は恐怖する」など、良い作品に恵まれたことが、創造の質・思想をきびしく問うていくうえで貴重な経験となった。

劇音楽やアマチュア合唱団のための作曲を踏み台にして、最初に発表した独立した作品が、宮沢賢治原作・中江隆介脚色の音楽物語「鹿踊りのはじまり」。混声合唱、フルート、ピアノに朗読が加わったこの曲には、メロディーやハーモニーに、あの「長沢ぶし」の色調がほの見える、心やわらぐ。ことばをもつ作品で、わりに自然なカタチで使っていた五音音階なども、器楽曲ではあまりすんなりとはこなせなかったように、作曲グループ「青年の会」時代の「フルート・ソナタ」や「フルート・弦・打楽器のためのラプソディー」には、そのあたりの試行錯誤をききとることができる。

突破口は、映画の仕事がきっかけで、尺八の村岡実と知り合ったことからひらかれてくる。村岡、宮田耕八朗、横山勝也のモダン尺八トリオが東京尺八三重奏団と名を変えてから、すすめられて書いたのが、「尺八三本のための小曲」。村岡の尺八の新鮮な魅力にとりつかれて、それだけで書いてしまったというこの曲——第一章「ふるさと」は本曲風だが、第二章「うた」はまさしく「長沢ぶし」

で、この部分は後に改訂されて、「子供のための組曲」の第二章におさまる。つづいて翌年書いたのが「尺八・弦・打楽器のためのコンチェルト・グロツン」で、尺八とフルートが入れ替っただけの「旧作ラプソディー」を受けつぐようなかたちではじまるこの曲は、いっそう大胆、情熱にまかせて、さまざまな試みが顔を出す。作品としてのまともはもう一步だが、「ラプソディー」のときの何かふつきれない手さぐり状態ではなく、たしかな手ごたえを実感しつつ、出口めざして突進していく熱気が迸る。

その熱気が、同じコンサートに協力した三木稔や出演者たちの熱気と合わさって、日本音楽集団結成のエネルギにふくらみ、その第一回演奏会で、傑作「子供のための組曲」を生み出す。楽器の性能にまだ精通する以前の作ではあるが、率直に心を通わせた楽器たちが光彩を放ち、作曲者の想いを過不足なく語り尽す。何よりも、アンサンブルのためという狙いを潔よく定めて、近世邦楽や虚無僧尺八などについてまわっていた、日本の楽器の否定的なイメージを一掃したことが成功につながった。この曲で長沢は、借り物でない自分自身の語り口をはっきりとつかみ、オリジナリティを獲得した。以前私は、この作品の特徴を、①メロデューの自然な流れ、②リズムの軽快さ・躍動感、③ひびきの明澄さ、④楽器の扱い方の自然さ、⑤各章の簡潔な構成と全体の統一性の五点にまとめたが（『邦楽現代』第十一号参照）、これらは、以後の長沢作品にもほぼ共通する、いわば「長沢ぶし」の特性とみて、あやまりではないだろう。

日本音楽集団の代表として腰をすえ、その座付作曲家としての役割を基盤に生み出した、日本の楽器のための作品は、五十曲にいたる。再演、三演はごく日常という、この国の音楽界では稀な幸運に恵まれて（「子供のための組曲」などではすでに百回をこえて演奏されている）、作品の力が本当に試されるなかで書きつづけられたそれらの内容はさまざまだが、民衆の生活や風土にことよせて楽想を展開させたものが多い。

「子供のための組曲」と双生児のごとく並ぶ名作「人形風土記」では、生活のなかで生きつづける人形たちのイメージを通じて、素朴な民衆の息吹きが伝えられ、「恋の歌」では、労働のなかで交わされる男女の想いが、篠笛と打楽器にのっておらかにうたわれる。「板碑のうた」は、名もなくひそやかに死んでいった者達へのレクイエムである。また、「飛驒によせる三つのバラード」では、都市文明の繁栄の陰で見失われていく手づくりの文明への共感が、「大津絵幻想」では、泥絵に托された逞しい風刺力に富んだ民衆絵画の世界が、独自の音の味わいをもって表出される。

「春」を謳った名作に宮城道雄の「春の海」があるが、長沢の「青春」はやはり

尺八と箏の二重奏で、それに勝るとも劣らぬ名曲である。また「春三題」における地歌三味線と箏のデュエットも、長唄三味線とはちがった味わいで、なかなか趣が深い。

楽器の特性を深く知るにつれて、それらに托す表現の幅も広がる。「三味線協奏曲」では、細棒を持ち替えて、南の島から北国までを駆けめぐり、「囃踏」では笛と打楽器が魅力にみちた世界をつくりだす。長沢が能管に托す世界は、様式化された幽玄な能に代表されるのではなく、むしろ民間神事のそれである。篠笛はもちろぬ鄙びた祭囃子の世界だ。「春三題」の地歌三味線については述べたが、「大津絵幻想」では、胡弓の何とも剽軽な味が心にくい。

語り物はまだ少ないが、その作曲歴からして、むしろ得手のはずだ。薩摩琵琶の弾き語りて河川の汚染を告発する「遡河」（小田切清光詩）は、端正な長沢作品にはめずらしく語気鋭く、挑発的である。「電女の玉」や秋田弁で語る「錦木」もそうだが、語りだけでなく、音楽がそこで充分モノを言っていることがすぐれた特質である。

むろん、書かれた作品すべてが成功作ばかりとは言えない。手慣れた語法がマンネリズムの罠にはまることもある。新しい試みが功を奏さないこともある。また、とつき易い音楽のゆえに、食い足りない演奏の危険は免れない。だがそれにもかかわらず、断じて時流におもねたり、新奇をてらったりせず、確信をえた自己の語法を核に語りつづける作曲家の強靱な精神は、まさに驚異的だ。この姿勢で氏はこれからも、軽やかに、ナイーブに、いちだんと心にしみいる「長沢ぶし」をきかせつづけてくれるにちがいない。私たちは、そのアポロンの表現の背後に息づく批評をこそ、ききとらねばならないだろう。



長沢さんと共に来た道

三木 稔

私が最初に長沢さんを知ったのは、もう三十年近い昔のことです。亀井文夫監督の感動的な映画「生きていてよかった」のタイトルで長沢勝俊の名を見たのが最初でした。その時はたしかギターでバック音楽を書いておられましたが、その格調高さが今も私の脳裡に残っています。

それから十年近く、教育映画、記録映画の分野で作曲を続けてこられた長沢さんのことは、同じ分野で生計をたてていた私の耳にも入っていました。しかし実際に会ったのは一九六三年五月二十一日、東京尺八三重奏団第二回演奏会の日でした。それが、以後の私たちを決定づける重大な日になったのです。

その日は長沢さん個人にとつては、初めて和楽器のために書かれた演奏会用作品へ尺八三本のための小曲への記念すべき初演の日でした。長沢さんと同じく私も、村岡実さんにすすめられて、前年の六十二年に三本の尺八のために「ヘソネット」を書きましたが、この第二回演奏会は、放送でうまくいった次作、集奏編成と合唱のへくるだんど」の舞台初演が行われました。そして、その日の興奮さめやらぬ打上げの席を利用して頂いて、私がかねてから村岡さんに訴えていた全邦楽器を持つ集団への夢を出席の皆さんに語らせてもらいました。長沢さんは静かに、しかし強く支持して下さいました。

現在でも他にプロフェッショナルな集奏団体が無い事実を考えますと、あのチャンスがなければ日本音楽集団誕生への点火はできず、以後二十年にわたる長沢さんとの友誼もなかったでしょう。まことに感慨深いものです。

日本音楽集団は、その一年後正式に発足しました。長沢さんには第二年度から運営委員長を務めて頂きました。そして数年後、有無をいわせず代表に就任して頂いたのです。これらのことが、長沢さんへの重い重い足かせとなつて、時に健康をも害うほどの苦しみをさせたことを私は痛く反省することがあります。しかし、同時に、長沢さんの人生図に、他の状況では生かされなかつたかもしれないフアイトを強烈にトレースさせることになつたのではないかと思つてみたりもします。

さて、集団創成期のメンバーにとつて、燃えるような六十九年・七十年が過ぎ、若い団員が加わりはじめた七十一年の第十五回定期では、長沢作品を特集しまし

た。そのプログラムで私は「長沢勝俊小論」を書かせて頂きました。長沢さんは、御自分でもおっしゃるように、基本的な作風を変えられる方ではありません。その定期以降にも別表のように名作を沢山書いてこられました。十二年前の小論は今もそのまま生きするような気がします。従つて、今回は長沢さんの別の面を私の回顧の形で書かせて頂いております。

長沢さんは、その抒情的な作風にもかかわらず、極めて衝動的な感性を持っておられます。いうならばロマンティストです。そして、その衝動を、徹底して押え普遍化していくところに真の芸術家としての自分を誕生させたのです。私には長沢さんが泣きながら作曲している光景が見えます。人並に嫉妬し、はげしくフアイトを燃やして机に向つている様子も判るような気がします。しかし彼の作品の上には一切そういつた生のものは姿を現わしません。素晴らしいことです。

世間にはさまざまの考えの人がいます。私が音楽監督をやっていた間、最も苦しかったことの一つは、長沢作品を現代的なものと思えず、音楽監督は何をしているのか、となじる団外の一部の声でした。その一方で沢山のファン、特に演奏者たちの大きな支持を持っている長沢作品を、集団活動の中で如何に生かしていくかは私の仕事の中の重大なポイントだったと思います。作品だけでなく、人柄もまた代表にふさわしく多くの支持者を得ています。団員たちから長沢さんを盛りたて守ろうという暖かい姿勢は、私など大いに羨ましい思いをしました。しかし、それは彼が持つて生れた資質と同時に、団内の融和を願つたため努力を重ねたことにも負つています。長沢さんは人を見る目も極めて確かなものです。時には冷酷なほどの分析ができる人です。しかしその作品と同様、彼は決して生にそれをぶつつけることがありません。私は、集団の陰の運営面でも長沢さんと二人三脚のようにやってきた時期があります。特に近年は互いに信頼しつつ、いかにこの集団に将来があるべきかを語り合つたものでした。彼は、集団の内政的なことは全部自分がやるから、と精神的に団員たちと語り合い、この難しい人的構成をもつた集団、私が理想を追つて壊わしがちの合奏体をまとめつづけてくれたのです。

作曲の上では六十才はまだ中途に過ぎません。しかし、世にもユニークだった日本音楽集団は、当然オーソドックスに移っていく過程の中にいます。片棒担いだ私は挫折しましたが、長沢さんにはずっと代表であつて頂かねばなりません。そして集団が栄えれば私の初志は救われます。

今の私に、たった一つ威張れることは音楽監督時代の私が、どうしてもやりたいたと提案していたこのコンサートが実現したこと。名ばかりの制作者ながら、その日を迎えて感無量です。

長沢勝俊 作品年譜

作曲年	曲名	編成	演奏時間	初演年月日・演奏者	楽譜	レコード	備考
一九五五	鹿踊りのはじまり (宮沢賢治作・中江隆介脚色)	混声合唱・フルート・ピアノ 朗読	28分	一九五五・六・十三、ホール・ドビヌーシカ、フルート柴田久 ピアノ柴田花枝、朗読・川尻則子、指揮・長沢勝俊			
一九五九	茨木のり子の詩による合唱曲 1、奥武蔵にて 2、台風22号 3、大学を出た奥さん	混声合唱	5分 3分 1分	一九五九・五・二六、東混、指揮・長沢勝俊 《青年の会第三回発表会》			
一九六〇	フルートとピアノのためのソナタ	フルート、ピアノ	12分	一九六〇・二・十四、フルート林りり子、ピアノ林光 《青年の会第四回発表会》			
一九六一	フルート・弦・打楽器のための ラプソディ	フルート、弦楽合奏、打(2)	14分	一九六一・五、フルート林りり子、日フィル、指揮・若杉弘 《青年の会第五回発表会》			
一九六二	山々が語りこした話 (茨木のり子詩)	混声合唱、フルート、クラリネット、 トランペット、ホルン、トロンボーン、 ピアノ、打(2)	10分	一九六二・十一・二二、理科大合唱団、同管弦楽団 指揮・印牧真一郎			
一九六三	尺八三本のための小曲 1、ふるさと 2、うた 3、まつり	尺八(3)	15分	一九六三・五・二二、東京尺八三重奏団(委嘱)			
一九六四	尺八・弦・打楽器のための コンチエルト・グロッソ	尺八(3)、ピアノ(2)、チェロ(2)、 打(2)	18分	一九六四・五・二〇、東京尺八三重奏団(委嘱) 他 一九六四・十一・十七、日本音楽集団、指揮・横山千秋 《第一回定演》		JRCA/五三 JRCZ/五三	
一九六五	愛の架け橋 (和田芳恵作・中江隆介作詞)	メゾソプラノ独唱、混声合唱、 笛、尺八(2)、三味線、箏(2)、十 七絃、打(2)	16分	一九六五・十・十五、木村宏子、日唱、日本音楽集団 指揮・横山千秋 《第二回定演》			
一九六六	子供の四季 組曲「人形風土記」	バリン独唱、児童合唱、笛、尺八(2)、 三味線、琵琶、箏(2)、十七絃、打(3)	14分	一九六六・八・六、池田明良、東京放送児童合唱団、 日本音楽集団、指揮・横山千秋 一九六六・十・二四、日本音楽集団、指揮・横山千秋 《第四回定演》		YSCM/ピA/四 JRCA/二五三 RCA/五〇五/JRZ	NHK委嘱
一九六八	日本民俗詩より「恋の歌」 第四重奏曲	アルト・テノール独唱、笛、打(3)	10分	一九六八・六・三〇、日野テル子、立川澄人、日本音楽集団(ステージ初演) 一九六八・十一・二四、坂井敏子、白根きぬ子、野坂恵子 宮本幸子(ステージ初演)		JRCA/二五五八 SJKT/三三四一	同年NHK委嘱 同年NHK放送初演
一九六九	第三重奏曲 詩曲「独奏尺八のための」	箏(2)、十七絃 尺八	13分 8分	一九六九・十・二七、さわらび会(委嘱) 一九六九・十・三一、宮田耕八朗 《第十回定演》		JRCA/二五五八 ピクター/三三四一	
一九七〇	冬の一日 二つの舞曲 リコーダーと尺八のためのファンタジア	ピアノ 笛、尺八(3)、三味線、琵琶、箏 (2)、二十絃箏、十七絃、打(3) リコーダー、尺八	7分 14分 5分	一九七〇・四、中島和子 一九七〇・十・十九、日本音楽集団、指揮・山田一雄 《第十二回定演》 一九七〇・十・二七、上杉紅童(委嘱)、古賀将之		JRCA/五五八 JRCZ/五五八	音楽の世界社

一九七一 萌春―尺八・箏による― 尺八、箏 10分 一九七一・十一・十、坂田誠山、白根きぬ子
 交響的幻想曲「朱輪金鈴」 箏(6)、十七絃、打(8) 19分 一九七一・十一・二七、日本音楽集団、指揮・石橋義也
 絵 馬 尺八、ピアノ 10分 一九七二・五・九、宮田耕八朗(委嘱)、中島和子
 まゆだまのうた 箏、尺八 9分 一九七二・十一・十三、吉岡絃子(委嘱)、宮田耕八朗
 かまくら ピアノ 1分 「あんさんぶる」附録
 虫おくり ピアノ 1分
 てんごう祭り ピアノ連弾 1分

一九七三 みち―日本楽器による 箏、尺八、三味線、琵琶、 11分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 八人の奏者のための― 箏(3)、十七絃 13分 一九七三・五・十五、野坂恵子(委嘱)
 錦木よせて(五つの小品) 二十絃箏 16分 一九七三・十・五、杉浦弘和、日本音楽集団、
 三味線協奏曲 箏(2)、十七絃、打(2) 16分 指揮・田村拓男
 二つの田園詩 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・十・六、井上昌山(委嘱)、井上優子、吉岡絃子
 日本楽器による幻想曲 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 板碑のうた―尺八と弦楽 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 指揮・長沢勝俊
 一九七五 楽しい練習曲集―箏と尺八― 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 四つの前奏曲―十七絃による― 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 南のしらべ―ピアノ連弾による― ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 颯踏―箏と打楽器のための 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 音楽― 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 遊 河(小田切清光詩) 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 竜女の玉―竹取物語より― 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七六 幼児用ミュージカル 語り 15分 カワイ音楽教室生徒
 「大きなかぶ」 うた、ピアノ 15分 河合楽器製作所
 飛驒によせる三つのバラード 尺八、箏(3)、十七絃 15分 出版部
 一九七七 春三題―三絃と箏による― 地歌三絃、箏 13分 一九七七・四・十二、桐韻会(委嘱)
 若竹の賦 尺八(4) 15分 一九七七・六・十二、森の会(委嘱)
 琵琶協奏曲 琵琶ソロ、箏、尺八(2)、三味線、 15分 三絃・沢井忠夫、箏・沢井一恵
 校倉によせる幻想― 琵琶、箏(2)、十七絃、打(2) 13分 一九七五・十二、(都山流演奏会)
 一九七七・十一・十五、山田美喜子(委嘱)、
 日本音楽集団

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七三 尺八、箏、十七絃 8分 一九七三・三・五、日本音楽集団(新人演奏会)
 尺八(3)、琵琶、箏(2)、十七絃 9分 一九七四・三・十六、NHK邦楽技能者育成会(委嘱)、
 尺八ソロ、弦楽合奏 12分 一九七五・二・十八、宮田耕八朗、東京ゾリステン
 尺八、箏(1)あるいは(2) 13分 一九七五・十・二二、宮本幸子(委嘱)
 十七絃 13分 一九七五・十一、中島和子、金子満寿江
 ピアノ連弾 17分 一九七五・十二・三、笛・望月太八、打・尾崎太一、
 箏、打(2) 17分 藤舎成敏(第三十回定演)
 琵琶弾きがたり 22分 一九七六・一・二八、半田淳子(第三十一回定演)
 箏、尺八(3)、三味線(2)、琵琶、 30分 一九七六・七・十九、日本音楽集団、語り・稻垣隆史、
 箏、二十絃箏、十七絃、打(3) 30分 指揮・田村拓男(第三十五回定演)

一九七八 二群の箏による対話

京の春

尺八協奏曲

二つの三味線と小鼓による三章

六連星

一九七九

宴

遠野の里

箏協奏曲

秋によせる三つの幻想曲

一九八〇

虹の輪

冬の日・パート2

一九八一

沖繩の風

大津絵幻想

錦木(野口達二作)

一九八二

光の春―日本楽器による

八人の奏者のための―

国東の賦

香―かぐわしき琵琶の音に

よせて―

北国雪賦

箏(4)
3分

尺八、三味線、琵琶、箏(2)、
十七絃、打
3分

尺八ソロ、箏、尺八、三味線、
琵琶、箏(2)、十七絃、打(2)
14分

三味線(2)、小鼓
12分

尺八、箏
9分

尺八、二十絃箏(2)、十七絃
15分

箏、尺八、三味線、琵琶、箏、
十七絃、打
3分

二十絃箏
14分

箏ソロ、第三部、十七絃一部
13分

尺八、箏(2)、十七絃
15分

尺八(2)、三味線(2)、箏(2)、十七絃
18分

箏、尺八
14分

箏ソロ、十七絃ソロ、第三部、
十七絃一部
19分

箏、尺八、三味線、琵琶、箏(2)、
十七絃、打
3分

箏、尺八、三味線、琵琶、二十
絃箏あるいは箏(2)、十七絃、打
16分

箏、尺八、胡弓、三味線、琵琶、
箏(2)、十七絃、打
3分

箏、尺八(3)、胡弓、三味線(2)、
琵琶、箏、二十絃箏、十七絃、打(2)
23分

尺八(2)、箏(3)、十七絃、語り
30分

三味線
箏、尺八、三味線、琵琶、二十
絃箏、十七絃、打
8分

一九七六・六・一、新箏曲人の会(委嘱)

一九七八・八、日本音楽集団
〈第八回夏期合奏研究会〉

一九七八・七・七、宮田耕八朗、日本音楽集団、
指揮・田村拓男、〈第四十八回定演〉

一九七八・八、杵屋静子、杵屋勝芳寿(委嘱)他
〈第十三回国際音楽教育学会〉

一九七九・二・十六、亀山香能(委嘱)、三橋貴風
一九七九・四・十二、楽(委嘱)

一九七九・八、日本音楽集団
〈第九回夏期合奏研究会〉

一九七九・九・十七、吉村七重(委嘱)

一九七九・十一・七、大嶽和久(委嘱)、グループ響

一九八〇・一・二六、京都邦楽グループ(委嘱)

一九七九・十一・三、創明合奏団(委嘱)、指揮・小野衛

一九八〇・九・二七、木本勝山・寺尾早知子(委嘱)

一九八〇・六・二七、沢井合奏団(委嘱)

箏ソロ・沢井忠夫、十七絃ソロ・沢井一恵

一九八〇・八、日本音楽集団
〈第十回夏期合奏研究会〉

一九八〇・十一、日本音楽集団

一九八一・八、日本音楽集団
〈第十一回夏のアカデミー〉

一九八一・九・二八、日本音楽集団、指揮・荒谷俊治、
〈第六十七回定演〉

一九八一・十一・六、邦楽の会つばら(委嘱)

一九八一・十一・二七、杵屋静子(委嘱)
語り・築地利三郎、指揮・長沢勝俊
一九八一・十一・十五、日本音楽集団〈武蔵野文化祭〉

JRCA/五七七

ALM/AL五

一九八三 寿 (ほぎた) 歌

5分

一九八三・三・五、日本音楽集団、中国中央民族楽団

指揮・田村拓男
(第十次海外公演)

〈日本の楽器〉
笛、尺八(2)、胡弓、琵琶、三味線(2)、箏、二十絃箏、十七絃、打(2)
〈中国の楽器〉
笛、笙、小管、嗩吶、小柳琴、琵琶、大三絃、高胡、二胡、中胡、大革胡、打(2)
尺八、箏
笛、尺八(2)、胡弓、三味線、琵琶、箏(3)、十七絃、打(2)

風によせる三つの幻想曲
鳥と砂と海と

15分

本本勝山・寺尾早知子(委嘱)
一九八三・十・五、日本音楽集団
指揮・田村拓男、(第七十九回定演)

劇音楽作品

作曲年	戯曲名	劇団(演出者)
一九四九	ファウスト博士	プーク(川尻 泰司)
一九五二	昔話桃太郎	プーク(川尻 泰司)
一九五三	山の民	新協劇団(村山 知義)
一九五七	青い鳥	プーク(川尻 泰司)
一九六一	ふりむくなべドロ	仲間(中村 俊一)
一九六九	牡丹燈籠	プーク(川尻 泰司)
一九七六	その妹	民芸(滝沢 修)
一九七九	ハメルン町の笛ふき男	プーク(竹内とよ子)
一九八〇	夜明け前 第一部	民芸(滝沢 修)
一九八一	夜明け前 第二部	民芸(滝沢 修)
	石川五右エ門	プーク(川尻 泰司)
一九八三	利休の妻	手織座(貫 恒美)

他、多数

映画音楽作品

作曲年	映画名(監督)
一九五五	生きていてよかった(亀井 文夫)
	一人の母の記録(京極高英・岩佐氏寿)
一九五七	世界は恐怖する(亀井 文夫)
一九六〇	人間みな兄弟(亀井 文夫)
一九六一	未来につながる子ら(木村莊十二)

他、多数

作成・池田 逸子

多士済々、賑やかに集う

長沢勝俊・還暦と

作曲生活35年を祝う会

今年の八月に還暦を迎えた長沢勝俊氏を祝い、同時に作曲生活に入ってから三十五年目を迎える同氏の業績を称え、今後さらに名曲を書き続けるよう励まそうという会が、去る九月十日夕五時から七時半まで、池袋サンシャイン60の五十八階摩天楼大飯店で開かれました。

同氏が代表をつとめる日本音楽集団の面々や、純粋多感な青年音楽家として活躍していた人形劇団ブーク時代のOBや現役の人々、同氏が主宰・指導していた合唱団「ドビヌーシカ」や職場サークルの合唱団、また同氏の重要な仕事の一つ



▲①

- ① 挨拶する長沢勝俊氏夫妻
- ② 人形劇団ブークによる「南京玉すだれ」
- ③ 挨拶する柳家小三治師匠
- ④ 長沢氏と語る宮田耕八朗(中央)、中村八大の各氏
- ⑤ なつかしの「ダーク・デラックス」(ブークOB)



▲②



▼③



でもある映画(記録・教育等)関係者、現在講師をつとめている日本大学芸術学部の先生方、その他、文化庁や新聞、放送、レコード、評論、演劇、邦楽関係者など、当初予定していた出席者数を大幅に越え、同氏の人柄と音楽を反映し、交際の広さを物語る盛大なものとなりました。

会は花束の贈呈に始まり、作曲家の杵屋正邦氏の挨拶と乾杯の音頭、鈴木一郎氏(現津田塾大教授、国際文化振興会・国際交流基金を通じ日本音楽集団がお世話になった)、富樫康氏(音楽評論家)、松原剛氏(日大教授)らの挨拶の他、人形劇団ブークの「南京玉すだれ」や「ニポポ」の演奏がありました。またユニークなところでは、落語家の柳家小三治氏が長沢勝俊作品のレコードや音楽集団との出会いを面白おかしく語り、中村八大氏が音楽集団を指揮するなど、最後まで参加者を楽しませるものとなりました。



▲⑤

長沢勝俊先生の還暦をお祝い申し上げます。 祝・日本音楽集団第79回定期演奏会



人形
劇団



Puppet Theater PUK

1983年度・長沢勝俊作曲の人形劇

- 青い鳥 原作/M・メーテルリンク、改編・演出/川尻泰司
- 東海道中噺 十辺舎一九作より 作・演出/川尻泰司
- 八郎 原作/斎藤隆介、脚色/川尻泰司、演出/川尻原次
- 小さいお城 原作/サムイル・マルシャーク、脚色・演出/長谷詔夫
- 雪ん子ゆき 原作/斎藤隆介、脚色/星野毅、演出/長谷詔夫

有限会社

劇団



〒151 渋谷区代々木2-12-3
☎03-370-5128(代)

■13年目を迎えた専門人形劇場

日曜日、祭日には、たのしい公演をおこなっています。

■海外人形劇シリーズ

海外のすぐれた人形劇を招聘。各地での公演を企画。
来年1月には オーストラリアの影絵公演。

■プーク人形劇アカデミー-PUK Puppet Academy

職業的専門人形劇人を育成する教育機関!!12期生募集中!!

有限会社

プーク人形劇場

〒151 渋谷区代々木2-12-3
☎03-379-0234

■人形劇のテクニカルスタッフ

人形をつかったの映画・TV・ビデオ・CM・CF・イベント、
etc……の企画・制作・出演

(この12月にプーク人形劇場の隣・記録映画社ビル6Fに移転します。
おあそびにお越し下さい。)

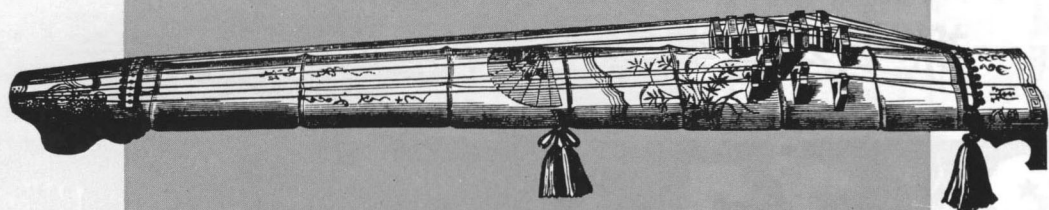
有限会社

スタジオ・ノーヴァ

〒150 渋谷区鶯谷1-1
☎03-463-0965

人形劇団プーク

東京都渋谷区代々木2-12-3 〒151
2-12-3 Yoyogi Shibuya Tokyo JAPAN



長沢勝俊先生の還暦をお祝い申し上げます。

伝統に便利さを加えて———当店のすべての商品にクレジットがご利用になれます。

琴光堂和楽器店

松本店 長野県松本市大手4-12-9 TEL 0263-32-3255
諏訪店 長野県諏訪市城南1-2562-6 TEL 0266-52-2341
東京店 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL 03-792-8481

祝・長沢勝俊先生・還暦と作曲生活35年！

“世界に響く日本の音”

新しい伝統を創り出すために、

紅屋の楽器をお試し下さい。

総桐琴、花林、犬皮三味線共に50,000円より

調製して皆様のお電話御待ちしております。

紅屋琴三味線店

吉田岩雄

電話 昼0429-25-3935
夜0429-43-3030

レコード・テープ

長沢勝俊作品集

現代センスを日本の伝統に生かした長沢勝俊の意欲作。

錦木によせて

春三題(三味線と箏) 若草 陽炎 花吹雪 / 尺八協奏曲 / 錦木によせて(五つの小品) (二絃箏) 藍玉 萌黄 茜雲 瑠璃 琥珀 / 飛騨によせる三つのパレード (尺八 箏と十七絃箏) 沢井忠夫(三味線) 沢井一恵(箏) 富田耕八朗(尺八) / 野坂恵子(二絃箏) / 坂田誠山(尺八) / 木村玲子(十七絃箏) 田村拓男(指揮) 日本音楽集団

JRZ-2557 ¥2,200

現代邦楽の古典とも言える長沢勝俊の代表作。

人形風土記

組曲「人形風土記」ニボボ / こけし / のろま人形 / 流しびな / きじょうま / 木っぞ / 子供のための組曲

日本音楽集団
CR-1009 ¥2,200

さわやかな音色とともに春を告げる伝統楽器の響き。

萌春

詩曲(尺八独奏曲) / 萌春(箏と尺八) / 第四重奏曲 / 二つの舞曲(合奏)

日本音楽集団

宮田耕八朗(尺八) / 坂田誠山(尺八) / 白根まゆみ、坂田とし子、野坂恵子、宮本幸子(箏)

JRZ-2558 ¥2,200

磨きぬかれた典雅な響き、長沢勝俊の個性豊かな力作。

まゆだまのうた

まゆだまのうた(尺八、箏による) / 三味線協奏曲 / 二つの田園詩(尺八と箏、十七絃による) / 暈踏(笛と打楽器のための音楽)

日本音楽集団

望月太八(笛) / 富田耕八朗(尺八) / 坂田誠山(尺八) / 杉浦弘和(三味線) / 宮本幸子(箏) / 野坂恵子(箏) 他

JRZ-2557 ¥2,200

RCA Records and Tapes 発売元 / RVC株式会社

〈府中店〉 パブハウス伊千兵衛 新規開店 《アルバイト女性募集》午後6時開店 午前2時閉店

京王線府中駅南口下車ケヤキ並木三菱銀行横左側(2分)
ケヤキビル地下1階 ☎0423-68-4480

舶来居酒屋

いちべえ
SNACK & DRINKS

飲んで唄って、心のクリーンアップ!
ゆったりとした雰囲気、女性のお客様でも
安心して楽しめるお店です<カラオケ1000曲>。

吉祥寺中道通り TEL. 21-2242

日本の地酒/越の寒梅、雪中梅、梅錦、浦霞、菊娘 〈山海珍味〉 〈季節料理〉 50種

- ◎ミーティング用のお弁当もお受けしております。
- ◎宴会5名様より30名様迄お受け致します。お気軽にご相談下さいませ。

吉祥寺店 吉祥寺伊勢丹隣りF & Fビル地下一階 武蔵野市吉祥寺本町1-8-16
午後5時30分開店 11時閉店 ☎0422-22-2981 水曜日<休>

銀座店 中央区銀座5-4-18 INビル地下一階 午後5時開店 / 11時30分開店
(ソニー通り) ☎03-571-1046 / 土曜日午後2時開店 <日祭休>



第24回 旗野恵美創作舞踊公演

『裸像』

- 1983年10月12日(水)
- 午後7時開演(開場6時30分)
- 新橋・ヤクルトホール

入場料=前売 2,200円、当日 2,500円(全自由席)

出演

伊東無言／吉江泉／松永雅彦
旗野由記子／中川圭子／中村菊代／無藤恭代
富田雅美／森田理枝子／近澤直美／三ッ木美恵
浜野由佳子／福沢かおる／岡牧子／野村ひはる
糸林里夏／佐々木千賀子／豊川真由美
旗野恵美

スタッフ

創舞●旗野恵美 演出美術●大庭三郎
衣裳●もたいまり 音構●森田雅行
宣伝美術●出川淳子 舞台監督●千早正美
制作●新納紀美夫

■お問い合わせ……旗野恵美舞踊研究所●世田谷区経堂1-30-21 TEL 03(420)4953

新年会・忘年会 ただ今、予約受付中!

味覚の王様は何んと云っても中国料理です。

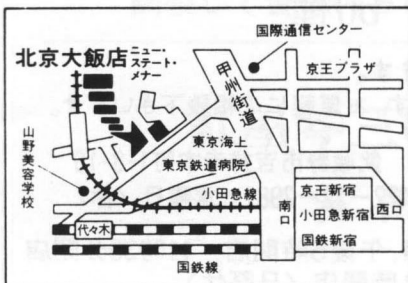
当店は、その味覚を皆様にご満足いただける自身をもっております。

味の良さ……。ボリューム……。値段の格安……。

忘年会、新年会、ご家族づれ、ご商談・ご会食等各種パーティーにご利用下さいませ。

●サービスランチ600円より(AM11:30～PM14:00) ●一品アラカルトコーナー500円より各種ございます。

●御宴会コース料理 @3,000円より各種承っております。



中国料理



北京大飯店

渋谷区代々木2-23-1 ニューステートメナー内1F

TEL.374-9961

邦楽現代ニュース

日本音楽集団今年度前半の主な活動記録

五月十六日(月)

第七十六回春の総合定期演奏会 朝日生命ホール

五月二十四日(火)

東京都高校音楽会総会におけるコンサート 都立芸高ホール

五月二十六日(木)

武生市文化センター中学校演奏会 主催・武生市文化センター

六月六日(月)～十一日(土)

高松市巡回学校公演(十六校・十七ステージ)主催・高松中学校音楽教育研究会

六月十七日(金)

第七十七回定期演奏会——コンクール優勝者によるソロとデュエットの夕べ

青山タワーホール

六月二十日(月)～二十三日(木)・六月二十七日(月)～七月一日(金)

石川県下巡回学校公演(二十五校・十七ステージ)主催・青少年劇場及び石川県各市町村教育委員会

七月十二日(火)

第七十八回定期演奏会——伝統音楽演奏会No.9(へん曲の巨匠たち)

七月十七日(日)～三十日(土)

第十一次海外公演 クフモ音楽祭(フィンランド)などに出演

九月二日(金)

第三十一回国際アジア・北アフリカ人文科学会議にて日本音楽集団特別コンサート 都市センターホール

九月四日(日)

福島県芸術祭オープニング・コンサート いわき市文化センター

九月七日(水)

研究団員こんさあと バモス青芸館

九月十一日(日)

小山公演 主催・小山市文化センター

九月二十一日(水)

世田谷区民コンサート 主催・世田谷区

「反核運動に積極的に立ちあがる団員たち」

日本音楽集団の中には「反核・日本の音楽家たち」に参加している団員も多数いますが、今夏日比谷公会堂(七月六日・八日)で行なわれたコンサートでは、日本の代表的な作曲家十四人の中の一人として三木稔が「AUGUST, 1945」作曲し、自ら日フィルを指揮、二十絃ソロの野坂恵子とともに多くの人々に訴えましました。

また八月七日の被爆地長崎における「国際平和コンサート」には、尺八の坂田誠山が出演し、「鶴の巢籠り」を演奏している姿が全国テレビニュースで報道されていました。

これらに先だつて行なわれた渋谷山手教会前の街頭デモンストレーション・コンサートにも尺八の福田輝久、米澤浩が参加しました。

「人類が核によって滅亡するのかわれども、「人類が核を消滅させるのかわれども」の岐路に立っている現在、こうしたボランティア活動が、多くの人々と手を結んで大きな力になって行くことを願わずにはいられません。

〈誠和銘〉尺八は

手造り十高精度

独自の工夫でより良い音を追求しています。

！只今二尺三寸管(A)普及のため、定価五万五千円の特別サービスにて月五本迄を限定生産しております。御希望の方はお早めにお申込み下さい。

誠和音芸

代表 坂田誠山

〒156 東京都世田谷区桜三十八-1818

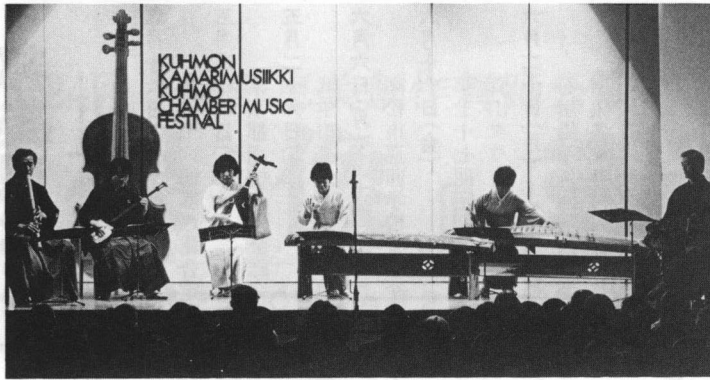
TEL(03)3421-0108 四八三

日本音楽集団第十一次海外公演

フィンランド演奏旅行同行記

横溝亮一

日本音楽集団の第十一次海外公演、フィンランド演奏旅行に同行する機会を得たので、その見聞したところを綴ってみたい。今回の公演は、私がフィンランド・クフモ室内音楽祭の監督セツポ・キマネン氏に日本音楽集団について紹介したことがきっかけになって実現した。そのクフモにおける三回を含め四カ所ですべて六回のコンサートを成功裡に終えることが出来たのは、紹介者としてたいへん嬉しい



■演奏曲目

長沢勝俊作品——冬の日・パート2、萌春

三木 稔作品——わ、ダンス・コンセルタ

ントⅢ、秋のファンタジー、ひなぶり

しおさい、竜田の曲、孤響、流琵琶

古典などその他作品——行(伴谷晃二作曲)

獅子、扇の的、鹿の遠音、通り門付け

鉢返し、幕間三重

■参加団員

笛／西川浩平

尺八／三橋貴風

三味線／蓑田司郎

琵琶／半田淳子

二十絃箏／吉村七重

十七絃／花房はるえ

打楽器／尾崎太一

作曲／三木稔

ことであつた。

公演全体としての反応は「我々ヨーロッパ圏以外に、このように美しく、興味深い音楽があつたことを知った喜び」(クフモ、大学教授)、「各楽器の繊細な音に感動した。しかも、それぞれの楽器がヨーロッパの楽器と共通しているところもあつて興味深く感じた」(オウル市、教師)……といった聴衆の言葉に集約されると思う。

一方、フィンランドのマスコミは、こぞつて大々的に日本音楽集団を取り上げクフモ地方の有力紙カイヌー新聞などは二回にわたつて一ページ全面を使った特集を組んでいた。従つて、コンサートをかかなかつた人でも、町中で声を掛けてくるケースもあり、音楽の相互理解・親善の両面で意義深い演奏旅行であつた。

まず、今回の旅行の主目的であつたクフモ室内音楽祭について簡単に紹介しておきたい。首都ヘルシンキから北東へ六百キロ、人口一萬四千人という小村クフモで開催されているこの音楽祭は、一九七〇年、チェリストのセツポ・キマネン、ヴァイオリニストの新井淑子夫妻によって創設され、以来十四回を重ねている。今年は十二カ国から八〇人の音楽家が参集し、のべ五十二回のコンサートが開催された。

毎年、テーマ作曲家を二、三人設定し、その作品を集中的に演奏するのが、クフモ室内音楽祭の特色になっている。今年はベートーヴェン、地元フィンランドの現役長老作曲家エングランド、そして日本の三木稔が選ばれた。

さて、音楽集団の奏者たち七人、三木夫妻、そして私の一行十人は、七月十七日フィン・エアで成田を出発、ノン・ストップ十二時間半の快適な飛行の末、同日夕刻ヘルシンキ空港に到着。直ちに国内線に乗りかえカヤニへ、更に迎えに来ていたバスで東に百キロを進み、クフモに夜十時頃辿りついた。夜十時といっても、まだ陽差しは明るく、夕方五時頃といった感じである。

私は今回が四回目のクフモ訪問になるので、旧知の村人・音楽家も多く、再会を喜びあつたが、その間にも集団のメンバーたちはテキパキと楽器運び、翌日からのコンサートに備えた。

翌十八日午後、新築された「トレーニング・センター」を演奏会場に、日本音楽集団の第一回コンサートが開催された。約四百人の聴衆を前に「獅子」(笛・西川浩平、太鼓・尾崎太一)、「扇の的」(琵琶・半田淳子)などの古典ものや長沢勝俊の組曲「冬の日」などが演奏され、さかんな拍手を浴びた。

比較的わかりやすい長沢の作品などに対して、古典作品への反応が心配されたが、それは全く杞憂に終り、たとえ言葉はわからなくても、強い印象を心に受け止めているように見受けられた。

翌十九日にはクフモから北西に三百キロ、フィンランド北部最大の都市であるオウル市でコンサートが行なわれた。日本の交通事情ではバスによる三百キロの移動は一日がかりの仕事になるが、道路事情の良いこの国では何の苦もなく三時間到達してしまう。

真新しい市のホールは、当地出身の作曲家マデトウヤを記念して「マデトウヤ・ホール」と名づけられており、席数約千の非常に音響の良い会場である。ここでも三木氏と私が交互に解説を加えながら、古典と三木・長沢作品が演奏された。休憩時間にはステージに置いたままの二十絃箏など楽器を珍しげに見に来る人も多く、中にはしきりにメモを取る聴衆もいた。

この日のコンサート後には、ホテル内のディスコで地元の人たちの歓待を受け、邦楽器から一転して、エレキやシンセサイザーの響きの中で、フィンランド青年たちと深夜まで踊ったメンバーもいたようだった。

翌二十日はふたたびクフモに戻り、更に二回のコンサートが行なわれた。三木稔の「わ」や「しおさい」が好評で、とくにセッポ・キマノン氏のチェロ、吉村七重の二十絃箏で演奏された「しおさい」は、参加した各国音楽家たちの間でも非常な好感をもって迎えられた。そして、ルーマニア出身のヴァイオラ奏者ウラジミール・メンデルスゾーン氏が「自分もぜひ演奏したい」と名乗り出て来て、三木氏の特訓の末、二十三日に行なわれたフリー・コンサートの日に再び吉村七重とのコンビで演奏された。なお、このウラジミール・メンデルスゾーン氏は、大作曲家フエリックス・メンデルスゾーン一族の子孫だとのことだった。

このフリー・コンサートの日は、例年、かなり脱線した演奏があつて、聴衆は大いに喜ぶのだが、我々もひとつクフモ住民と音楽家たちを驚かせてやろうということになった。相談した結果、たまたまクフモに来た日本人観光客なども加えて、ステージで阿波踊りを披露した。最初、あつげにとられて見守っていた音楽家たちも、ソ連勢を先頭に続々とステージに飛び上って我々の踊りの環に加わり、にぎやかな笑いと拍手のうちに、親善の実を果たしたのだった。

このようにしてクフモ、オウルの公演を終えた我々はヘルシンキに戻り、同市の名所のひとつであるテンペリアウチオ教会と、シベリウスの生誕地ハメンリナ市公会堂において各一回のコンサートを持ち、全日程を終えた。

二週間の旅程の間、好天に恵まれ、この美しい森と湖の国の自然を満喫しながら、そして暖かい拍手に包まれながら演奏旅行をつつがなく終了できたのは、たいへん幸いであつた。

露秋銘 尺八

西田露秋

〒794 今治市新谷新田甲798

電話 0898-48-1097・1257

日本音楽集団及び団員等の今後の予定



- 九月二十三日(金) ～十月十六日(日)
高橋明邦(打楽器)、竹井誠(笛・尺八)がストックホルム文化省の招聘により谷珠美、高田和子と北欧コンサートに出演
- 十月三日(月) ～十一月十日(木)
米澤浩(尺八)が盛岡在住の箏演奏家、黒沢和雄・千賀子両氏と共にアメリカ公演
- 十月十七日(月) ～二十二日(土)
富山県巡回学校公演
- 十月十七日(月)
吉村七重第三回箏リサイタル 芝ABC会館ホール
- 十月十八日(火)
三人の十七絃奏者(宮本幸子・菊地悌子・沢井一恵)による演奏会 草月ホール
- 十月十九日(水)
白根きぬ子箏リサイタル 青山タワーホール
- 十月二十日(木)
田嶋直士第三回リサイタル 青山タワーホール
- 十月二十七日(木)
ゲヴァントハウス・オーケストラ東京公演での三木稔作曲「急の曲」に集団が出演 昭和女子大人見記念講堂
- 十一月一日(火)・二日(水)
二十絃野坂恵子の世界 NO・5 天如ほか ジェンジャン
- 十一月五日(土)半田公演 半田勤労福祉会館
- 十一月六日(日)
ゲヴァントハウス・オーケストラ名古屋公演の「急の曲」に出演
愛知文化講堂
- 一九八三年度日本音楽集団地方公演(文化庁助成)
十一月七日(月)岐阜/岐阜産業会館
十一月八日(火)和歌山/和歌山市民会館小ホール
十一月九日(水)第九回関西定期演奏会 京都府立文化芸術会館

十一月十日(木)

ゲヴァントハウス・オーケストラ神戸公演の「急の曲」に出演
神戸文化ホール大ホール

十一月十一日(金)

ゲヴァントハウス・オーケストラ徳島公演の「急の曲」に出演
徳島市立文化センター

地方公演つづき

十一月十二日(土)高松/高松オリブホール 十一月十三日(日)岡山

岡山市民文化ホール 十一月十四日(月)今治/今治市住民センター

十一月十五日(火)宇和島/宇和島公会堂大宮ホール 十一月十六日

(水)姫路/姫路市民会館

十一月十五日(火)

畦地慶司第二回胡弓リサイタル 青山タワーホール

十一月十六日(水) ～二十六日(土)

岐阜県巡回学校公演

十一月十六日(水)

日フィル定期で三木稔作曲「春秋の譜」を演奏(指揮・渡辺曉雄)

十一月二十七日(日) ～十二月五日(月)

関西音楽集団(田嶋直士主宰 ヨーロッパ(ミラノ・パリ)公演

十一月二十六日(土)・二十七日(日)

合唱劇「峠の向かうに何があるか」(三木稔作曲) 名古屋芸

創センター こけらおとし公演で再演

十二月二日(金)

第八十回定期演奏会 芝ABC会館ホール

一月九日(月)

宮田耕八朗作品展 石橋メモリアルホール

三木稔作品集(レコード)カメラータ・トウキョウより相ついで発売!!

■第三集「急の曲」世界初演ライブ

十月五日発売 CMTI-四〇〇一

■第四集「ペロ出しチョンマ」「八郎物語」

十月二十一日発売 CMTI-四〇〇三

各二、八〇〇円

ゲヴァントハウス・オケとへ急の曲を再演!!

今秋来日を機に東京・名古屋・神戸・徳島で

世界最古のオーケストラであるライプツヒ・ゲヴァントハウス・オーケストラ（指揮—クルト・マズア）が、CBC中部日本放送の招きで十月二十五日来日し、二十七日東京公演を皮切りに十一月十八日まで全国各地で、その重厚な響きを聴かせてくれます。

今回のプログラムの中で特に話題になっているものに、日本音楽集団の共演で行なわれる三木稔作曲「へ急の曲」があります。

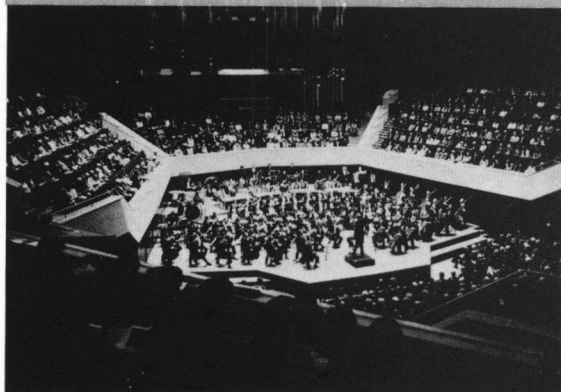
「へ急の曲」は、一九八一年に行なわれたゲヴァントハウスオーケストラ二百年祭のために委嘱を受け、三木稔が作曲した東西楽器群の融合による交響曲で、世界の平和を願って書かれた「二つの世界のための交響曲」と副題のついた三十六分の大作です。

同年十一月十二、十三日の両日、同オーケストラと日本音楽集団の共演で初演が行なわれましたが、新装なったゲヴァントハウスホールへつめかけた満員の聴衆は熱狂し、総立ちとなってこの偉業を讃えました。

ある東独関係者は「ゲヴァントハウス二百年の歴史に輝かしい金字塔を打ち建てた」と云い切りました。また演奏会終了後、指揮者マズア氏は「ゲヴァントハウスが八三年に日本公演を行う際には、集団との共演で「へ急の曲」をプログラムに入れてたい」と表明しました。その時の感動が今度は、日本のホールで実現しようとしています。

ゲヴァントハウス・オーケストラ日本公演皮切りの日十月二十七日、名古屋の十一月六日、神戸の十日、徳島の十一日これらの日々は邦楽を含めた音楽関係者、ファンにとって記念すべき日になりそうです。上演の日程と会場は次の通りです。

十月二十七日（木）七時 昭和女子大学入見記念講堂
十一月六日（日）六時 愛知文化講堂
十一月十日（木）七時 神戸文化ホール
十一月十二日（金）六時半 徳島市民センター



日本の音、

その磨きぬかれたひびき

☆尺八の音譜そのまま
「しの笛」が吹けます。

民謡、三曲、詩吟に最適

美しい雅
根来塗

- 1.5尺用（九本調子）—1.7尺用（七本調子）
標準価格 **10,000**円
- 1.8尺用（六本調子）—2.0尺用（四本調子）
標準価格 **12,000**円
- 2.1尺用（三本調子）—2.3尺用（一本調子）
標準価格 **14,000**円

実用新案出願中

ロツレチ笛

品番 0221

<八孔>



新発売!



株ワダ楽器杉並ショールーム
〒166 東京都杉並区南阿佐ヶ谷3-5-3
TEL 03 (393) 4680

株ワダ楽器

富山県東砺波郡城端町信栄
TEL (0763) 62-2348

日本音楽集団 Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

代表 表 長沢 勝俊
首席独奏者 野坂 恵子
常任指揮者 田村 拓男
運営委員長 坂田 誠山
(副代表)

事務局 奈良 義寛(局長)
霜島 素子
会計監査 芦沢 英雄
マネージメント協力(国内及び国外)
株式会社 ジャパン・アーツ

団員連名

(幹部団員)

宮田耕八郎(尺八・笛)*
坂井 敏子(箏・三味線・胡弓)
白根きぬ子(箏)
宮本 幸子(箏)
野坂 恵子(箏)
田村 拓男(指揮・打楽器)*
長沢 勝俊(作曲)
三木 稔(作曲)

(正団員)

望月 太八(箏)
西川 浩平(箏)
坂田 誠山(尺八)*
三橋 貴風(尺八)
福田 輝久(尺八)
田嶋 直士(尺八)
藤嶋 重康(尺八・笛)*
畦地 慶司(胡弓・作曲)*
野口美恵子(三味線)
半田 淳子(琵琶)

(準団員)

竹井 誠(尺八・笛)
米澤 浩(尺八)
素川 欣也(尺八)
水谷 雅康(尺八)

(研究団員)

大畠菜穂子(箏)

(賛助会員)

(有)琴光堂和楽器店
(松本・諏訪・東京)

(団友)

青木 誠 中村 八大 柳家小三治
秋浜 悟史 野口 鎮 横山 勝也
荒谷 俊治 佐藤 敏直
稲垣 隆史 小田切清光
川崎 祥悦 芹沢 英雄
菊地 悌子 高野 文子
楠 知子 田中 利光
鞍掛 昭二 鶴野 和子
鯉沼 広行 広瀬 量平
杉浦 弘和 鳳声 晴由
砂崎 知子 星 旭
戸井 昌造 増田 陸美
藤舎 呂悦 元橋 康男
仲俣申喜男 矢崎 明子

(維持会友)

AOIミュージック株式会社
株式会社西友ストア
株式会社社豊島園
株式会社ソサカ
書画筆工業
西武建設株式会社
西武鉄道株式会社
西武百貨店
誠和音楽
大和精工株式会社
タマチ工業株式会社
日本オペラ協会
菱電商事株式会社
宮園自動車
宮園オート

青柳 孝年 武江 利博
赤木 明 田村 鎮男
朝吹 英一 寺島 孝之
井阪 絃 内藤 国枝
稲木 一 永根 玲子
榎本 容三 奈良 英雄
遠藤 将一 根志 彰
岡 昇三 新倉 鶴子
金子 博美 野坂 純一
家根原光子 旗野 恵美
亀田 和保 早川 和子
河野 義博 花房 艶子
近藤 栄一 原 順一郎
國持 光生 柳川 創造
高橋 克己 福田 洋一

山本 哲子(三味線)
山田まゆ美(琵琶)
川村 公子(箏)
岡田 寿子(箏)
宮川 正之(作曲)
水川 寿也(尺八)
島崎 春美(箏)
佐藤由香里(箏)
木根 道男(尺八)
原 一男(胡弓)
水谷 聖子(箏)
中野はるな(箏)
名譽団員 山田美喜子
協力団員 伊藤 惣一
地方在住団員 塚本 早苗
*印は本年度運営委員
昭和五十八年度十月現在

日本音楽協会

協会世話人

長沢勝俊(代表)・三木稔・野坂恵子・宮田耕八朗・田村拓男・山田美喜子・坂井敏子・坂田誠山・田嶋直士・奈良義寛・芹沢英雄

構成団体

日本音楽集団

野坂恵子二十絃箏エコー
ぐるーぷ・ただ
尺八ゾリステン
関西音楽集団

「星組」合奏団(東京)

合奏団「たあく」(東京)

合奏団「鼎」(関西)

合奏団「遊」(仙台)

合奏団「グループ・みずほ」(名古屋)

Nipponia Hawaii Ensemble(ハワイ)

*以上六団体は日本音楽協会合奏団を構成します。

協会支部 協

東京支部 日本音楽集団事務所扱い

関西支部 田嶋直士

水戸支部 齊藤幸山

長野支部 佐藤幸宇山

山梨支部 郷晃

長崎支部 牧山雅楽郁

熊本市部 古川羽衣山

秋田支部 野口裕子

TEL

TEL

TEL

TEL

邦楽の会つばら事務局



練習場と事務所新設

日本音楽集団の練習場は、今まで東京音楽大学のご厚意で、同大学C一四〇三教室を使用させて頂いておりましたが、このたび、決意もあらたに専用の練習場を開設しました。

新宿から京王線で一つ目、笹塚駅下車、徒歩三分、笹塚十号通り商店街を通り抜け、水道道路に面した六階建の滝沢ビルがそれです。地下が練習場、三階が事務所にあてられ、練習場と事務所が同一ビルに併設されたことにより、今後はより能率的な活動が可能になりました。

例えば集団結成当時、市ヶ谷の正派邦楽会の道場を拝借したことに始まり、代々木にある人形劇団ブークの練習場を借りていた時期……、時には楽器と共に練習場を求めて渡り歩いた体験、そして最近までお世話になった東京音大の教室……。それぞれに忘れがたい思い出と、私たちに、機会に、「あらたに出発する気持で行こう」と団員一同張切っています。

新住所下151東京都渋谷区笹塚三十七七一 滝沢ビル

電話(〇三)三三七八四七四(二代)



▲新練習場での初練習風景 8/29
練習場開きのパーティ▼



友の会会員募集

日本音楽集団では、演奏会などの催しのお知らせや情報が受けられ(A・B会員)、定期コンサート・シリーズを一括して割引料金で予約できる(A会員)友の会会員を募集しています。入会手続きは随時行なっていますので、ご希望の方は次の要領でお申込み下さい。

領でお申込み下さい。

A会員—会費・半年五〇〇〇円(三公演のチケット代を含み、座席確保)

一年一〇〇〇〇円(六公演のチケット代を含み、座席確保)

B会員—会費・一年二〇〇〇円

申込み方法—次のいずれか

(1)各演奏会会場で。

(2)郵便振替—振替番号 8-73639 日本音楽集団宛。友の会入会希望と明記。

(3)現金書留—住所、氏名、電話を明記し、会費を添えて日本音楽集団へ。

おことわり

三木稔(発行責任者)、霜島素子(編集)を中心とするスタッフの並々ならぬ努力で、七年前から発刊され続け、今春で第十五号を刊行した機関誌「邦楽現代」は、現代の音楽界の中でも貴重な雑誌として新風を巻き起し、各方面から期待されましたが、諸般の事情で休刊のやむなきに至りました。

出来る限りの近い将来に再発行したいと考えていますが、それまでの便宜的な方法として今回のような春秋の総合定期コンサートの折に制作されるプログラムのの中に、従来の機関誌「邦楽現代」、広報誌「邦楽現代ニュース号」を盛り込んだものにしたいと思います。

友の会会員の皆様をはじめとして、「邦楽現代」、「邦楽現代ニュース号」の購読者の皆様、集団を支持してくださる多くの方々に、お詫びを申し上げますと同時に、ご理解、ご協力を頂きますようお願い致します。

編集

日本音楽集団

東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル

写真

あがたせいじ(P.I.P.I.22)

印刷

株式会社 光藍社

●日本音楽サービス扱いのレコードと楽譜●

●出版楽譜

長沢勝俊作品

- 尺八・箏による「萌春」/400円
- 箏四重奏曲/600円
- 詩曲・まゆだまのうた/650円
- 二つの田園詩/500円
- 楽しい練習曲集「箏と尺八」初級編/750円
- 楽しい練習曲集「箏と尺八」中級編/700円

三木稔作品

- 四群のための形象/500円
- 箏 譚詩集I/300円
- 孤響・ソネットI/500円
- 天如・佐保の曲・竜田の曲/800円
- 夕影の詩・箏双重・雅びのうた/700円
- 松よ(パート譜は別)/900円*
- 千絃の曲/400円*
- 箏 譚詩集II/1200円*
- 尺八のためのソネットII-V/1200円*
- 序の曲/2500円*
- 破の曲/2500円*
- 急の曲/4000円*

●レコード

- 組曲<人形風土記>・子供のための組曲 長沢勝俊作品集—2200円R
- 萌春 長沢勝俊作品集/二つの舞曲・箏四重奏曲・詩曲・萌春—2200円R
- まゆだまのうた 長沢勝俊作品集/三味線協奏曲・魂踏・二つの田園詩・まゆだまのうた—2200円R
- 錦木によせて 長沢勝俊作品集/春三題・尺八協奏曲・錦木によせて・飛騨によせる三つのバラード—2200円R
- めばえ 三木稔選集I/「四季」ダンス・コンセルタントI・芽生え・奔手・夕影の詩・竜田の曲—2500円CA
- 巨火・わ 三木稔選集II/巨火・わ—2500円CA
- 急の曲 三木稔選集III/急の曲—2800円CA [新発売] ○ペロ出しチヨンマ・八郎物語 三木稔選集IV—2800円CA [新発売]
- 野坂恵子・三木稔「二十絃箏の世界」/破の曲・春琴抄序曲と春鶯囀・白曜・まほろしの米・天如・佐保・竜田・箏譚詩集II・ひなぶり・東から—10000円CA
- 野坂恵子・二十絃箏の世界II/紡ぐ(池辺晋一郎)・芽生え(三木)・秋の曲(三木)・ワールズ(マカイ)・グリーン・スリーブス—2500円CA
- 野坂恵子・二十絃箏の世界III(三木稔選集III)/鎮魂協奏曲・箏譚詩集I・華やぎ—2500円CA
- 三木稔作品集I/古代舞曲によるバラフレーズ・凸—2000円CO
- 三木稔作品集II/ソネット・箏譚詩集I・四群のための形象—2000円CO
- 三木稔作品集III/序の曲・雅びのうた・天如・孤響—2000円CO
- 三木稔：凸・古代舞曲によるバラフレーズ/1500円CO
- 雅(みやび)/華やぎ(三木稔)・六段の調・みだれ・新八千代獅子—2500円CO
- GAKU/樹冠(長沢)・四大(入野義朗)・瓜(藤田正典)・プレリュード(新実徳英)—2800円KO
- 野坂恵子古典箏曲集I-V/各2000円CO
- 日本の楽器入門—3000円CO

★上記のレコード・楽譜の販売の仲介をしますのでご希望の方は下記の日本音楽サービスへご連絡下さい。

また、コピー楽譜もお預けしています。

★楽譜の価格の後、無印は全音版、*はみきねん・コレクション版、レコードの価格の後、RはRVC版、COはコロムビア版、Vはビクター版、GAはカメラータ版です。

★この他にカセットテープもあります。詳細はお問い合わせください。

日本音楽サービス

東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル(302)電話03-378-4741